

令和7年度第2回 棚倉町立学校統合準備委員会

令和7年9月30日（火）18時～
棚倉町役場 正庁



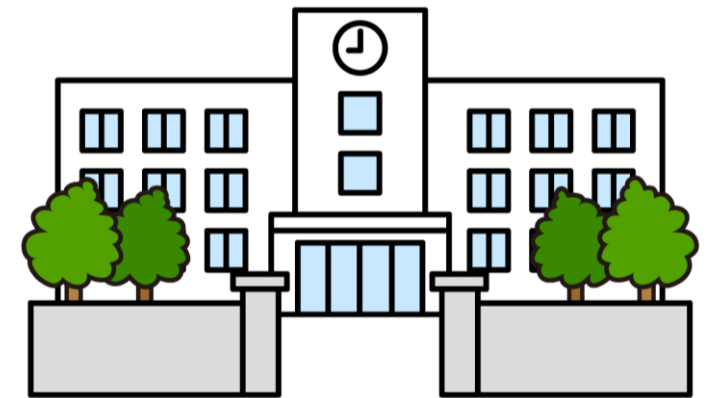
協議事項

(1)住民意見交換会の報告について

(2)統合学校の校種について

(3)先進校視察について

(4)その他



◎学校統合の方向性(第1回準備委員会において確認)

現在ある小学校を1つにして、新しい校舎の統合学校を、令和14年度開校を目指して準備を進めます。

統合学校の校種については、令和7年度中にその方向性を示します。

近津幼稚園は令和9年度までとし、令和10年度から棚倉幼稚園と統合できるよう準備を進めます。

社川幼稚園の統合については、社川地区の出生者数を、見きわめながら検討していきます。

(1)住民意見交換会の報告について

7月15日(火)から24日(木)にかけて、町立学校等の統合に関する住民意見交換会を開催しました。開催場所、参加人数等は下記のとおりです。

開催日	場所	参加人数
令和7年7月15日(火)	近津小学校(体育館)	20名
令和7年7月16日(水)	社川小学校(体育館)	19名
令和7年7月17日(木)	高野小学校(地域協働室)	10名
令和7年7月22日(火)	棚倉町立図書館	13名
令和7年7月24日(木)	棚倉町立図書館	9名

○周知方法:行政区回覧、マスコミ記事、町ホームページ、町公式SNS
保育園、幼稚園、小学校、中学校の保護者へマチコミで個別周知

説明会では園児・児童・生徒の推計と学校施設の状況、教育委員会としての統合に関する方向性を説明

※複数寄せられたご意見・ご質問

- ・統合学校の設置場所はどこにするのか。棚倉高校跡地で決定なのか。
- ・廃校となる学校の校舎、校庭等の利活用はどうするのか。
- ・統合学校の建設予算はどの程度になるのか。
- ・統合学校敷地としてルネサンス棚倉を利用することはできないか。
- ・統合学校開校前に他の学校と統合はできないのか。
- ・今後、学校統合で決まったことがあれば情報提供をしてほしい。
- ・今後も統合に関する説明会を開催する予定はあるのか。

総 括

住民意見交換会及びその後においても、学校統合に関して反対する意見はないことから、学校統合の必要性について、概ねご理解いただけたと感じております。

なお、参加された保護者の方からは、学校統合に向けた具体的な質問があり、学校統合までに保護者会等において、より具体的事項についての説明も必要と感じたところです。

(2) 統合学校の校種について

教育委員会では、「園児・児童・生徒の減少」、「学校施設の老朽化」、
また、「キャリア教育」と「学力向上」をより一層の推進するために、
これからは「小中一貫教育(校)」が必要であると考えます。

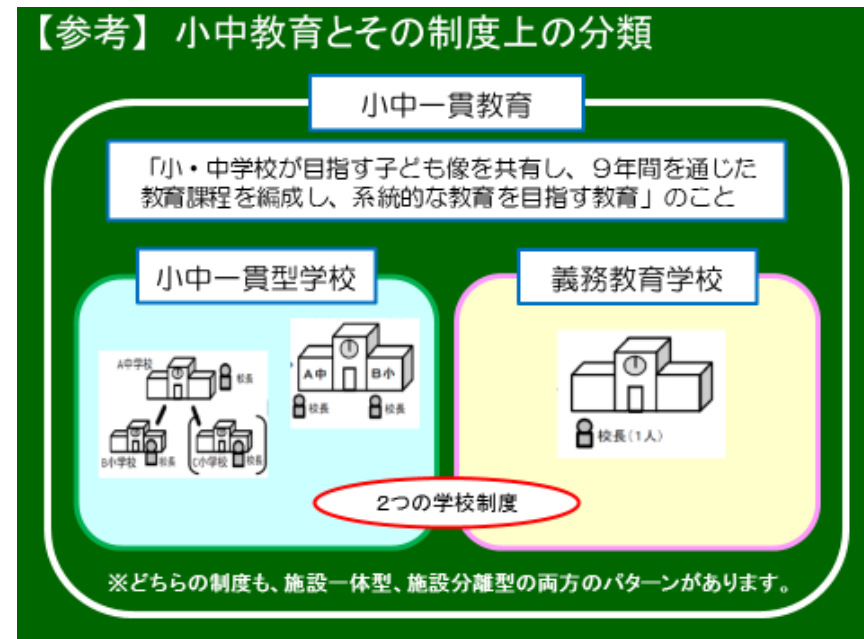
「小中一貫教育」とは・・・

小学校、中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を見通した
教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育(文部科学省)

小中一貫教育(校)の形

小中一貫教育の学校の形として「小中一貫型小学校・中学校」と「義務教育学校」があります。
その主な違いは下記の通りです。

小中一貫教育(校)				
学校の形	小中一貫型 小学校・中学校		義務教育学校	
施設の形態	施設一体型	施設分離型 (施設隣接型)	施設一体型	施設分離型 (施設隣接型)
修業年限	小学校6年、中学校3年		9年 (前期課程6年、後期課程3年)	
組織・運営	それぞれの学校に校長、 教職員組織		1人の校長、1つの教職員組織	
教員免許	所属(小・中)する学校の 免許を保有		原則、小学校、中学校の 両免許を併有	
乗り入れ授業	○調整に課題	△調整・移動 に課題	◎	△移動に課題



※乗り入れ授業
中学校の教師が小学校に出向き、専門分野の授業を行う、又その逆もある。
(例：中学校の英語教師が、小学校の外国語授業を行うなど)

小中一貫教育(校)のメリット

学力向上

- ・義務教育学校は、独自の区割りにより、一貫したカリキュラムを導入
- ・教科担任制の早期導入が可能
- ・継続的な学習による教育効果の高まり

中1ギャップ

中1の壁の緩和

- ・中学校入学時の環境の変化が軽減
- ・中1の壁による学習意欲の低下等の緩和
- ・友人関係の継続
- ・不登校やいじめの減少が期待できる

交流による 精神的発達

- ・幅広い年齢層の交流ができる
- ・下級生が上級生へ憧れを持つ
- ・上級生が下級生を思いやる心を持つ

継続的な指導

- ・教員間での生徒の情報共有がしやすい
- ・継続的で効果的な生徒指導ができる

小中一貫教育(校)のデメリット

デメリット1

達成感の
減 少



義務教育学校は、小学校の卒業式がないため、一つの区切りを終えた、成長した、と実感できる機会が減少



学年区割りごとの修了式の実施や、前期課程と後期課程の昇降口を分けたり、校舎の作りを工夫するなど

デメリット2

人間関係
の固定化



9年間同じ学校生活で、人間関係が固定化し、一度いじめや仲間はずれになると立ち直る機会が得られない場合がある



異学年交流や学級間交流を意図的に設定することや、乗り入れ指導により多様な教職員とかかわる機会を設け、いじめ等の早期発見を図るなど

デメリット3

自主性を養う
機会の減少



小学校5・6年生が高学年として活躍する機会が無くなり、リーダーシップや自主性を養う機会が減ってしまう



学校行事等において、学年の区割りごとの最上級生を運営主体にすることでリーダーシップを養うことができる

デメリット4

中学生による
低学年への悪影響



中学生相当の生徒の行動や振る舞いが小学生相当の児童の発達に悪影響を及ぼす恐れがある



下級生から見られることにより、中学生相当の生徒が逆に優しくなり、下級生の面倒見が良くなるという先進事例もある

工夫・対応策等

メリット・デメリットの比較(◎大いにある、○ある、△あまりない)

		小中一貫型小学校・中学校		義務教育学校	
施設の形態		施設一体型	施設分離型	施設一体型	施設分離型
メリット	学力向上	○	△	◎	○
	中1の壁の緩和	○	△	◎	○
	交流による精神的発達	○	△	◎	○
	継続的な指導	○	△	◎	○
デメリット	達成感の減少	あまりない	あまりない	ある	ある
	人間関係の固定化	ある	ある	ある	ある
	自主性を養う 機会の減少	あまりない	あまりない	ある	あまりない
	中学生による 低学年への悪影響	ある	あまりない	ある	あまりない

◆教育委員会としての提案

統合学校の校種を、

**「施設一体型」の
「義務教育学校」としたいと考えます。**



◎理由1

1つの学校組織と一貫した教育環境での学校運営

- 小中一貫型小学校・中学校は、それぞれに教育課程等の編成が必要
- 1人の校長先生のリーダーシップのもと、9年間を見通した教育目標を掲げ、教職員は小・中学生の分け隔てなく指導できる
- 後期課程(中学校)への進級に環境の変化が少なく、不登校者数の減少が期待できる

◎理由2

小中一貫した教育により「学力の向上」が期待できる

9年間の一貫した教育目標
の下で、よりの確で継続的な
学習指導と情報共有が可能

「中1の壁」の緩和・解消に
より学習意欲の低下を防止

小学校段階での教科担任制
の導入等、専門性を活かした
指導が可能

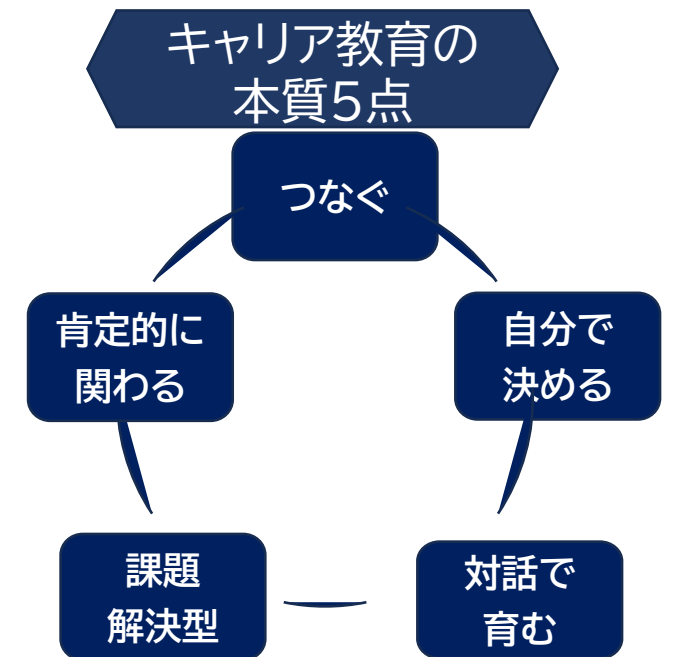
子どもの発達状況に合わせ、
4－3－2等柔軟な学年区
割りが可能

◎理由3

「キャリア教育」のより一層の推進

本町は、平成25年度から「キャリア教育」に取り組んでいます。
町立学校統合後も「キャリア教育」を柱に棚倉町の子どもたちを育てていきます。

義務教育学校では「キャリア教育」の本質の1つである学校間を「つなぐ」ことができます。
学校間をつないで、より一層子どもたちの資質・能力を育成することが可能です。



◎理由4

統合学校の建築費用に国の支援が受けられる

義務教育学校は、小学校と中学校が統合するため、学校校舎と屋内運動場の建築費用に国の支援が受けられます。(原則負担率1／2)

(3)先進校視察について

◆茨城県ひたちなか市立美乃浜学園(義務教育学校)

令和3年4月に阿字ヶ浦小学校、磯崎小学校、平磯小学校、阿字ヶ浦中学校、平磯中学校の5校が統合となり、ひたちなか市立の学校では初の義務教育学校として、スタートを切り、4年目を迎えた学校です。

児童生徒数 前期課程 348名(1年60、2年55、3年59、4年50、5年67、6年57)
後期課程 171名(7年54、8年54、9年63)
教職員 40名

校舎の特徴 1.学年段階の区切りや異学年交流に対応した空間構成
2.バリアフリーに配慮した学校
3.防災拠点として機能する学校

視察日程:令和7年11月12日(水) 視察予定時間 13時～15時

行 程:棚倉町役場 9時30分出発予定 ※町公用車使用

視察校名:茨城県ひたちなか市立美乃浜学園(義務教育学校)

住 所:ひたちなか市磯崎町字入道5135番地



(3)その他

今年度の準備委員会開催予定について

委員会	開催日時	場 所	内 容
第3回準備委員会	令和7年11月26日(水) 18:00～	棚倉町役場 正庁	統合学校の校種等について
第4回準備委員会	令和8年2月中旬 18:00～	棚倉町役場 正庁	統合年度、統合学校の校種の確認 設置場所の検討等